

平成25年2月26日  
東北地方整備局

## 新造の港湾業務艇4隻が完成、進水

東日本大震災の津波で流出などしたため、東北地方整備局において建造を進めておりました港湾業務艇4隻がこのほど完成し、3月7日に進水します。

港湾業務艇は、直轄港湾工事の監督業務や調査測量等に使用する船舶で、今回建造した4隻には東日本大震災の航路啓開の経験から、災害発生時に海底地形測量や海底異常物探査もできる装置などを搭載しました。

進水後は、JCI（小型船舶検査機構）による検査ののち、宮古港、釜石港、大船渡港、相馬港の各港湾に配備し、被災した港湾の復旧を支える船舶として使用します。所属港湾に配船する前に、4隻の進水を報道公開いたしますのでお知らせします。

## 記

## ◆進水式について

- 日時：平成25年3月7日（木） 10:00～12:00
- 場所：仙台塩釜港（仙台港区）中野埠頭5・6号岸壁（案内図参照）
- 工程：
  - 10:00～10:05 建造経緯の説明
  - 10:05～10:35 進水安全祈願祭
  - 10:35～11:35 港湾業務艇進水（1隻目）
  - 11:35～12:00 船内の説明

※気象条件によって作業中止となる場合が有りますので、取材をご希望の社は別紙をご記入のうえFAXにて事前に当局宛ご連絡をお願いします。

## 〈発表記者會〉

宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

【お問い合わせ先】 東北地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課

課長：遠藤源

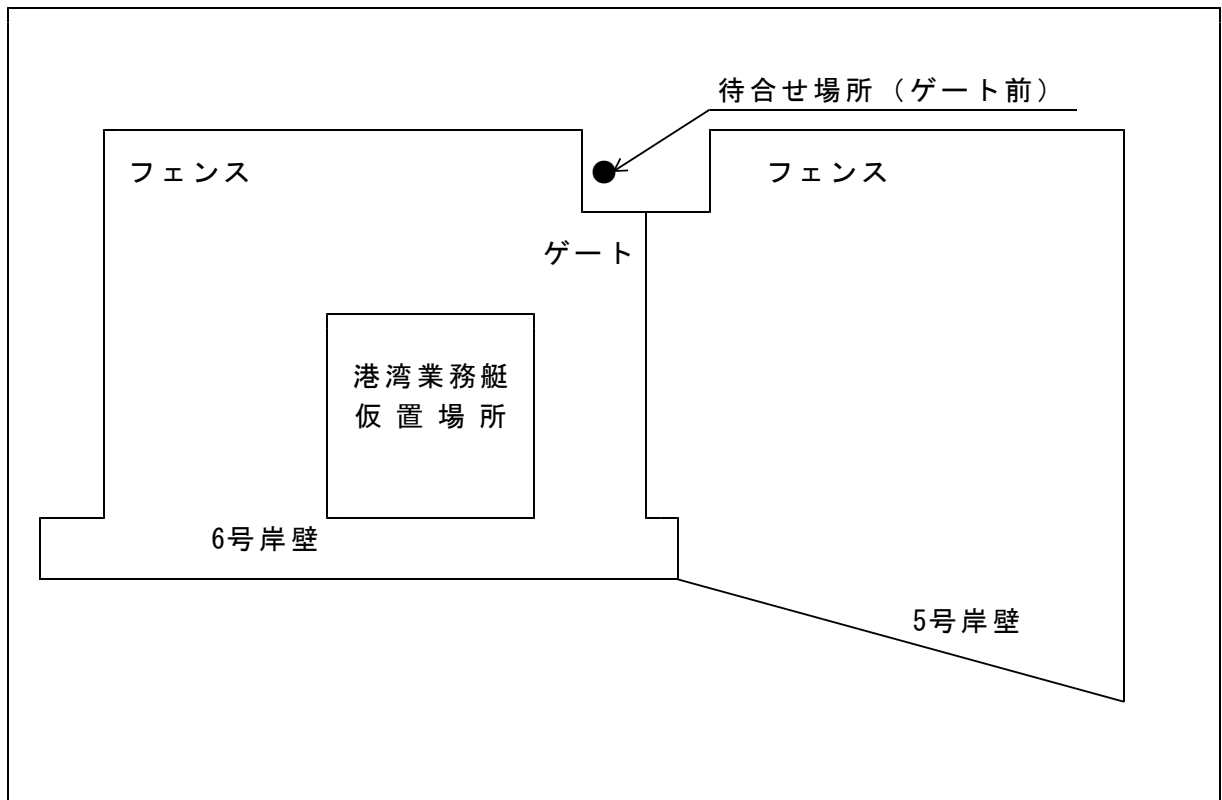
課長補佐：古玉悟

電話：022-716-0004、FAX：022-716-0017

# 港湾業務艇進水場所 案内図



## 進水場所の案内図



※ 構内はソーラス区域になっておりますので立入許可が必要になります。

F A X 送信表

F A X : 0 2 2 - 7 1 6 - 0 0 1 7

東北地方整備局 港湾空港部  
海洋環境・技術課 古玉 あて

3月7日 (木) 10:00~12:00

港湾業務艇の進水について取材を希望します。

※ 取材を希望されるプレス関係者は次の欄にご記入ください。

プレス機関名	:	.....
お名前		..... ..... ..... ..... .....
ご連絡先	住所	電話
.....		

平成25年3月5日 17:00までに返信をお願いいたします。

## 港湾業務艇建造経緯

国の港湾業務艇は直轄港湾工事の監督業務や調査測量に使用しているもので、東北地方整備局では震災前各港湾で10隻の港湾業務艇を所有していました。

太平洋側では八戸港、久慈港、宮古港、石巻港、仙台塩釜港、相馬港、小名浜港に配備していました。

震災時、沖合避難等により被災を免れた船もありますが宮古港と相馬港の船は被災し、使用できない状況となりました。

(写真-1, 2)

宮古港、釜石港、大船渡港、相馬港は防波堤に大きな被災を受けており(写真-3, 4, 5, 6)防波堤の災害復旧工事を行うことになりましたが防波堤工事場所は海上であり港湾業務艇が必要なことから、新造のため国の作業船整備費が認められ宮古港と相馬港の代替船及び釜石港、大船渡港の新造船を建造することとなりました。

昨年4月27日に一般競争入札の結果長崎県佐世保市の前畑造船(株)と契約し建造を進めてきました。今年2月初旬、造船所から4隻を貨物船に積んで仙台塩釜港に輸送し仙台港区岸壁上で測量機器の搭載や最終調整を行い、完成進水の日を迎えました。

4隻の港湾業務艇には、災害発生時海底地形探査や水深測量、海底異常物探査もできるナローマルチ測量装置を搭載するとともに、水質計なども装備して環境調査もできるものとなりました。本日、進水して船舶検査を受けた後それぞれ宮古港、釜石港、大船渡港、相馬港の復旧工事現場に配備します被災港湾の復旧復興のために活躍することが期待されます。

被災した船舶



写真-1 はまぎく



写真-2 おきかぜ

防波堤の被災状況



写真-3 宮古港



写真-4 釜石港



写真-5 大船渡港



写真-6 相馬港

今回新造の4隻



りゅうじん は 宮古港へ  
 くろがね は 釜石港へ  
 ごいし は 大船渡港へ  
 おきかぜ は 相馬港へ 回航して  
 それぞれの港で業務を行うこととなります。

4隻とも同じ主要目(性能)です。

向かって左より「ごいし」、「くろがね」、「おきかぜ」、「りゅうじん」